大　学　史　研　究　通　信

第 57 号、2009 年 2 月 1 日（日）

大学史研究会

第 57 号の内容 ：第 31 回大学史研究セミナー報告・2008 年度総会報告・2008 年度会計報告・2008 年度年会費未納の方へ－納入のお願い－・2009 年度大学史研究セミナー開催についてのご案内・『大学史研究』第 24 号特集テーマへの投稿のお願い・会員新刊ニュース・事務局からのお知らせ・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

第 31 回大学史研究セミナー報告

2008 年 12 月 20・21 日の両日、東京・田町のキャンパス・イノベーションセンター東京において、第 31 回大学史研究セミナーが開催されました。初日はシンポジウム、総会、懇親会が、2 日目には自由研究発表が行われました。2 日間で 34 名の参加がありました（一般会員 29 名、学生会員 3 名、非会員 2 名）。以下、研究発表の内容を中心に当日の様子について報告します。

＜シンポジウム「大学モデルの伝播と変容」＞

初日のシンポジウムでは、「大学モデルの伝播と変容」と題し、斉藤泰雄 （国立教育政策研究所）、近田政博 （名古屋大学）、長谷部圭彦（日本学術振興会特別研究員）の 3 名の会員に、それぞれラテンアメリカ、ベトナム、オスマン帝国における欧米大学モデルの受容と変容について論じていただいた。

企画者の意図は、大学モデルという、本研究会で以前から論じられてきたテーマについて、モデルの他国への移植という現象にとくに焦点を当て、その過程について論じていただくことにあった。上記の諸国・地域については、大学の創設や発展過程について日本ではあまり知られてはいないものの、すでに各会員が発表されている業績において、欧米モデルの移植に関連する興味深い内容が明らかにされている。大学モデル論はどちらかというと主要欧米各国の大学のあり方を捉える枠組みとして論じられてきたように思われるし、それは日本の大学の発展過程のあり方とも分かちがたく結び付いてきたといえるだろう。しかし、今回の企画ではモデルを受け入れた側の立場から各モデルを捉えることで、広く言えば、世界史的な視野から見た場合の大学モデル論への展望を与えてくれるものと考えた。

各報告の概要を簡略化してまとめておく。ラテンアメリカは、ヨーロッパ以外の地域では最も古い大学の歴史を持っているが、それはある面「忘れ去られた大学史」でもある。主にスペインの植民下で、宗主国のコピーともいいうるような最高水準の大学の設立が進められた。その背景には、布教を中心に植民地の文化を変容させようとする植民の目的が反映されていた。しかし、それは必ずしも植民地の現実にフィットしたものではなく、逆に植民地の大学像を固定化させることにつながり、長期的には現地における大学教育の形骸化・儀礼化を帰結させ、その後の大学改革運動の遠因となった。ベトナムでは、中国、フランス、ソ連、アメリカといった国々の植民や政治的影響化で、多様な大学モデルの導入が図られた。それらは強制された場合とある程度自発的に選択された場合とがあった。後者のほうが現地にはより根付きやすかったが、多様な外国モデルは相互に影響を及ぼし合い、現在でも拮抗・併存した関係にある。オスマン帝国は植民地化されなかったため、主体的な大学設立を進めることができた。そのモデルは近代西欧にあったが、モデルを自主的に選択する過程で、多様なモデルの摂取・導入が試みられた。一応の結論としては、オスマン帝国の大学は「仏独混合モデル型」であったといえるが、そのプロセスの詳細については、トルコや欧米においてもいまだ十分には明らかにされておらず、興味深くかつ重要な検討課題として残されている。また、上記いずれの国・地域

でも、特に 1990 年代以降は大規模な大学改革が進行しており、欧米モデルに依拠しつつ発展してきたこれまでの大学のあり方を大きく変容させるような転換に直面していることにも言及された。

報告後の議論では、特にグローバル化に伴って急速な大学の変革が進行していることと関係して、大学モデルとはそもそも何か、あるいは、今モデル論を問うことの意味は何なのかといった疑問が提起された。それに関連して、今や「世銀モデル」とでも呼ぶべき高等教育の開発モデルが進行しつつあること、グローバル化の進行によってこれまでの各国・地域の伝統によらず一元的な形での変革がかなりの程度進行しているといえるのではないかといったことが報告者やフロアから指摘された。同時に、その一方で完全な一元化はありえず、これまで各国が摂取し、それによって自国の大学のあり方を形成してきたモデルは一定の影響力を持っているのではないかといった意見も出された。これらの論点は今回の企画に対して向けられた問いであると同時に、大学の大規模な変貌に直面する中で、その状況と大学史研究がいかに対峙しうるかという、より根本的な問題とも深く関係しているように思われた。

個々の発表の内容は非常に充実しており、参加者の関心を強く惹きつけた。その意味で今回の企画は成功であったと考えている。一方、その充実した内容を俯瞰できるような枠組みを企画者（司会者）の側でうまく設定できれば、後半の議論はより有意義なものとなったと思われる。また、司会の時間配分のまずさにより討論の時間を十分確保できなかったことも反省点である。これらの点は今後の課題として、より充実したセミナー企画のための検討材料としていきたい。

＜自由研究発表＞

2 日目は午前から午後に掛けて以下の 5 件の研究発表が行われた。

- 坂本辰朗会員（創価大学）「大学評価とジェンダー ―1920 年代のアメリカ女性大学人協会（AAUW）によるアカデミック・スタンダード維持運動」
- 大西巧会員（関西大学大学院）「文部省「八年計画」構想とその後の展開 ～明治後期における高等教育機関の増設をめぐって～」
- 荒木康彦会員（近畿大学）「江戸幕府直轄教育機関旧蔵の独逸語書籍と市川兼恭の独逸学研究」
- 松浦正博会員（広島女学院大学）「中世パリ大学における学位試験制度と勉学の課程」
- 潮木守一会員（桜美林大学）「アルトホーフ没後 100 周年記念シンポに参加して」

各発表とも質疑応答を含めて 1 時間という比較的長い時間をとったが、いずれの発表も内容が濃く、参加者との間で活発な応答が交わされ、指定した時間が短く感じられるほどであった。

最後に、研究報告をいただいた計 8 名の会員、ならびに議論を盛り上げていただいた参加者の皆様に深く御礼申し上げる次第である。

（事務局セミナー担当　福留東土）

2008年度総会報告

2008 年度　大学史研究会　総会　議事録

2008 年 12 月 20 日（土）
於：キャンパス・イノベーションセンター東京
事務局作成

１．　編集委員会からの報告
紀要編集委員会の児玉委員長、および事務局紀要担当の岡田局員より以下の報告があった。『大学史研究』23 号は当初の予定より刊行が遅れたが、2008 年 10 月に刊行された。23 号から出版社（東信堂）および刊行形態（A5 版）が変更となった。また、次号 24 号は、特集号として依頼論文と投稿論文で構成され、投稿の締切は３月とし、2009 年 9 月を目途に刊行したい。会員から積極的に論文を投稿していただきたい。

２．　2008 年度決算報告および 2009 年度予算案
事務局会計担当代理として岡田局員より 2008 年度決算について報告があった。また、2009 年度予算案について説明があり、原案通り了承された。（詳細は後掲の資料を参照）

３．　事務局員の交替について
吉野局員より、杉谷局員と吉野局員が 2008 年度をもって事務局員を退任したい旨の説明があった。合わせて、2009 年度より新しい事務局員として沖塩有希子会員（青山学院大学）と浅沼薫奈会員（大東文化大学）を推薦したい旨提案があり、了承された。

４．　2009 年度研究セミナーについて
事務局セミナー担当の福留局員より、2009 年度の研究セミナーのシンポジウムテーマならびに会場について、会員からの提案を積極的にいただきたい旨、依頼があった。

５．　その他
吉野局員より、『大学史研究通信』のバックナンバーに関して以下の提案があった。『通信』のバックナンバーは現在、会員のみへ頒布しているが、最近、非会員からの頒布依頼が多くなっている。ホームページに掲載している号についてはそれを参照してもらっているが、未掲載のものについても今後、掲載を進めていきたい。ただし、投稿原稿などもあるので、執筆者に確認を取りたいが、この件について今後発行する通信上で会員に周知するので、意見がある場合は事務局に連絡していただきたい。

（事務局セミナー担当　福留東土）

2008 年度会計報告

大学史研究会 2008 年度会計ならびに 2009 年度予算案につきまして、以下に概要をご報告いたします。

＊ 2008 年度の収支報告

【 収入 】

2007 年度会計からの繰越金は 3,024,680 円でした。
年会費額は一般会員：5,000 円、院生等会員：3,000 円です。
2008 年度年会費は 94 名の会員より納入があり、前年度のセミナー終了後に納入された 2007 年度年会費も加えると、年会費・入会金の収入額は 652,000 円でした。

ここ数年、総会時点での年会費の納入率は6割程度の状況が続いており、昨年度は57.4%でしたが、今年は65.3%まで上昇いたしました（7.9ポイント上昇）。この場を借りてお礼申し上げるとともに、今後も引き続き、研究会の発展と円滑な運営のために、年会費納入に対する会員各位のご理解ご協力をお願い申し上げます。

つきましては、2008年度分までの会費未納の方を対象に、会費納入依頼通知と払込票を改めて送付させていただきました。こうした納入依頼通知の再送により、昨年度は22名の方から入金がありました。詳しくは後述の「2008年度分までの年会費未納の方へ　－ 納入のお願い －」や会費納入依頼通知をご覧のうえ、何卒ご協力賜りますようお願いいたします。

なお、その他の収入としては、「大学史研究」（紀要）の非会員への売上金30,500円がありました。

2008年度の総収入額は3,810,940円、前年度繰越金を除いた実収入額は786,260円でした。

【 支出 】

2008年度は「大学史研究」（紀要）第23号の発行にあたって、428,513円の支出がありました。

第31回セミナー開催経費は50,000円となりました。

印刷費については1,298円となっております。これは「大学史研究通信」発行の印刷、会員への諸連絡印刷物、年会費納入依頼通知の印刷等に関わる経費です。これまで、事務局員が大学で負担しているケースが多く、少額に留まっておりますが、今後はこうした負担がなるべく掛からぬよう対処していきたいと考えております。

通信費の支出は58,248円です。これは、「大学史研究通信」の発送、年会費納入依頼通知の発送、セミナーの出欠調査ハガキ、その他宅配便等の経費です。

消耗品・諸雑費は5､329円です。

また、謝金として23,697円を支出しました。これは、「大学史研究通信」の発送や名簿データ入力補助等、一度に大量の作業がある際のアルバイト依頼に関わる金額です。

次年度繰越は3,150,185円、来年度繰越金を除く総支出は660,755円でした。繰越金を除く収支の差は、125,505円の黒字となりました。

「2008年度会計報告」に明記されているとおり、2008年度の会計については、本年度より深野政之会員（東京女子大学）に監査を依頼し、精細な監査の上、会計の適正処理をご承認いただきました。御多忙の中、監査業務を賜りました深野会員にはこの場を借りて心よりお礼申し上げるとともに、次年度も引き続きよろしくお願い申し上げます。

＊ 2009年度の予算案

大学史研究会では、次年度の予算案について、まず事務局が基本案を作成し、これを総会に提示しそこでの審議を経て最終決定をしております。

例年と同様、2009 年度予算も上記の手順にしたがって予算案を決定しましたので、以下にご報告いたします。

【 収入案 】

収入は年会費と紀要売り上げが全てです。とりわけ、本研究会の運営経費は年会費納入に大きく依存しております。2009年度においては、前年度並みの650,000円を収入予定額として設定しました。繰り返しとなりますが、2009年度も会員各位のご理解ご協力をお願いする次第です。

紀要売り上げも例年並みの収入を想定し 50､000 円としました。このような金額を収入予定に組み込めるのは、編集委員会の方々のご尽力によって売り上げを伸ばしていただいたことが大きく関与しております。今後とも引き続きよろしくお願い申し上げます。

なお、今回のセミナー開催経費の戻し入れ額を、事前に大会校にお預けした準備金相当額に見積もっております。セミナー開催経費については、後述の支出案も併せてご参照下さい。
総収入額は 3,905,185 円、繰越金を除く総収入額は 755,000 円としました。

【 支出案 】

支出案は例年の予算案で設定している支出項目と支出額を考慮しつつ、算出いたしました。
2009 年度においては「大学史研究」(紀要・第 24 号)を一回発行する予定になっております。発行経費（制作・印刷・発送費の総計）は 450,000 円としました。
ここ数年の実績を踏まえて、一回分の経費としましたが、紀要発行は研究会の活性化にとって最も重要な事業ですので、投稿論文の本数に応じてその都度柔軟に対応させていただきたいと考えております。
セミナー開催経費は、本年度開催予定のセミナー準備金として事前に開催校にお預けする費用です。通常、参加費で経費は賄えますので、収入欄にもあるように、翌年度はそのまま戻し入れていただくことになることが想定されます。
大学史研究会ホームページにつきましては、研究会の情報発信機能として、今後一層の充実と活用を図る予定です。この管理費として 30,000 円を含めております。
編集委員会および事務局の会合費・旅費については、かつての総会で承認された項目ですので、それぞれ 50,000 円を計上いたしました。研究会の円滑な運営を目指して、定期的に会合を開けるように努めたいと思っております。
その他諸経費は、ほぼ例年通りの額を計上しております。
また、非会員への原稿依頼等に必要な謝金 20,000 円、予備費 100,000 円も含めました。
2009 年度から次年度への繰越金は 3,020,185 円、繰越金をのぞく総支出予算案は 885,000 円を予定しています。

本研究会においては、全体として緊縮財政をうたっておりますものの、予算の有効活用に向けた支出はやぶさかでありません。「大学史研究会の発展のため」、あるいは「会員サービスのため」に必要な経費支出の要請があった場合には、事務局でこれを検討し、それが妥当性をもつと判断しうるかぎり、新たな支出も認めてまいりたいと考えております。今後とも会員各位からのご提案、ご教示を歓迎いたしますとともに、研究会の将来的なビジョンも併せてご検討いただければ幸いに存じます。

以上の「2008 年度会計報告」および「2009 年度予算案」につきまして、ご質問、ご提案等ございましたら、事務局までご連絡のほどよろしくお願いいたします。

なお、今回をもちまして、会計担当の杉谷は事務局を退任させていただくことになりました。会員のみなさまには、長い間にわたり大変お世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。今後は浅沼薫奈会員（大東文化大学）に引き継ぎ、会計は沖塩・浅沼の二人体制で務めることになります。不慣れな点もあろうかと存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

（事務局会計担当：杉谷祐美子・沖塩有希子）

大学史研究会　2008年度　会計報告

（自2007年12月15日～至2008年12月19日）

収入　　支出

科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	¥3,024,880	『大学史研究』23号 印刷・DTP・発送費	¥428,513
年会費・入会金	¥652,000	第31回セミナー開催費	¥50,000
『大学史研究』売上金	¥30,500	運営委員会会合費・旅費	¥30,774
第30回セミナー開催費戻し入れ	¥93,924	事務局会議費・旅費	¥5,030
利息	¥4,836	銀行振込手数料・事務局会計会計費・ATM	¥57,869
		印紙代	¥1,290
		通信費	¥59,249
		消耗品・郵送費（文具・振込み手数料等）	¥5,329
		謝金（アルバイト代）	¥23,697
		次年度繰越金	¥3,100,195
計	¥3,810,940	計	¥3,810,940

前年度繰越金を除く総収入　金786,060円　　次年度繰越金を除く総支出　金660,755円

収支差引残高　金125,305円

上記のとおり、ご報告いたします。（事務局　会計担当　杉浦由美子）

（事務局　会計担当　中塚宗孝）

上記の会計報告について会計監査を実施した結果、収支差引残高はすべて適当かつ正確に処理されていることを認めましたのでご報告いたします。

（会計監査）　深野　政

大学史研究会　2009 年度　予算案

（自 2008 年 12 月 20 日～至 2009 年　総会開催前日）

収入　　支出

科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	¥3,150,185	「大学史研究第 24 号」制作・印刷・発送費	¥450,000
年会費・入会金	¥650,000	第 32 回セミナー開催経費	¥50,000
「大学史研究」売上金	¥50,000	ホームページ管理費	¥30,000
第 31 回セミナー開催経費戻し入れ	¥50,000	編集委員会会合費・旅費	¥50,000
利息	¥5,000	事務局会議経費・旅費	¥50,000
		印刷費	¥20,000
		通信費	¥75,000
		消耗品・諸雑費（文具・振込み手数料等）	¥10,000
		謝金（アルバイト代）	¥30,000
		謝金（非会員への執筆依頼等）	¥20,000
		予備費	¥100,000
		次年度繰越金	¥3,020,185
計	¥3,905,185	計	¥3,905,185

前年度繰越金を除く総収入　金 755,000 円　　次年度繰越金を除く総支出　金 885,000 円

上記のとおり、ご提案いたします。（大学史研究会　事務局）

2008 年度年会費未納の方へ　― 納入のお願い ―

本研究通信に記載の会計報告のとおり、大学史研究会の実収入は会員各位からの年会費（一般会員：5,000 円、大学院等在学・日本学術振興会特別研究員の会員：3,000 円）に大きくよっております。2008 年度の全会員数に対する年会費納入率は 65.3%であり、未納会員も少なからぬ状況です。

そこで、2008 年度の年会費納入依頼通知は昨年度すでに発送させていただきましたが、**2009 年 1 月 31 日現在、過年度分の年会費未納に該当する方につきましては、会費納入依頼通知と払込票を再度送らせていただくことにしました。 研究会の円滑な運営と発展のために、ご理解とご協力をお願い申し上げる次第です。**

過年度分年会費未納の会員各位の年会費納入状況の詳細につきましては、同封しております納入依頼通知をご覧いただきたいのですが、未納年度および 2008 年度会費分を含めた合計金額をご連絡しております。

また、年会費 3 ヶ年度分以上の滞納の会員各位には、研究会への継続参加のご意志を年会費納入によって確認できるまで、大学史研究会からの諸連絡や「研究通信」、紀要「大学史研究」等の発送を停止することになっております。該当する会員へのご連絡通知には、これに関する事項が記載されておりますので、ご留意願います。

なお、本依頼通知発送と入れ違いに年会費を納入いただきました場合には、何卒ご容赦のほどお願い申し上げます。

―― 年会費納入払込先 ――

・郵便振替口座 ： 大学史研究会　　口座番号　00120-3-47583
または
・銀行口座　　： 大学史研究会　　三井住友銀行　池袋東口支店（店番 671）
普通預金（口座番号 3456109）

（事務局会計担当　：　杉谷祐美子　・　沖塩有希子）

2009 年度大学史研究セミナー開催についてのご案内

2009 年度の第 32 回セミナーは東北大学に会場をお引き受けいただきました。東北大学史料館を舞台に、現在のところ、11 月から 12 月にかけての週末に 2 日間の日程で開催する予定です。詳細については、決まり次第、本通信とホームページでお知らせ致します。仙台の地で多くの会員の皆様とお目に掛かれるのを今から楽しみにしています。

（事務局セミナー担当　福留東土）

『大学史研究』第24号特集テーマへの投稿のお願い

既にご案内の通り、次号『大学史研究』（第 24 号）では、市販化を記念して「世界の大学改革 - 伝統と革新 - 」という特集テーマのもと、広く会員からの原稿の投稿を募っております。特集テーマの主旨については、『大学史研究』23 号の巻末をご覧下さい。

投稿の締切は 2009 年 3 月末日とし、2009 年 9 月を目途に刊行致します。会員からの積極的な論文の投稿をおまちいたしております。

会員新刊ニュース

Donald Kennedy〔原著〕, 立川 明・坂本 辰朗・井上 比呂子 〔翻訳〕 (2009/1) 『大学の責務』東信堂

有本 章〔著〕(2008/12)『変貌する日本の大学教授職(高等教育シリーズ)』玉川大学出版部

事務局からのお知らせ

『大学史研究通信』バックナンバーのホームページへの掲載について

『大学史研究通信』のバックナンバーにつきましては、現在のところ残部のある第 14 号以降はご希望の会員の方へ頒布することになっておりますことは、各号の通信の末尾に記載してある通りです。このような頒布による参照の方法以外のものとして、第 15 号と第 16 号、そして第 39 号以降につきましては、「会員ニュース」等の個人情報を除いてはホームページに掲載

してあるものを参照する方法がございます。しかしながら、最近会員でない方からの頒布依頼が多くなっております。さらには、ある時期からはホームページに掲載をしていながらその前のものがないということは、せっかくホームページを所有していながら、研究会としてそれを活用していないということでもあり、会員のみなさまへの還元という意味でも問題なしとも言えない部分があります。

現在の『大学史研究通信』は事務連絡が中心となっておりますが、その他の原稿の投稿ももちろん認められておりますし、これまでもさまざまな論考、情報提供がなされてまいりました。これらの多くの記事は非会員の方のみならず、当時の通信を手にしていない新入会員の方にも裨益するところが多いように思います。また、復刻版ですでに公刊された以降の未掲載のバックナンバーについても今後順次掲載を進めていきたいと考えております（かつての通信には新入会員の住所等の掲載もありますので、これまでと同様個人情報に該当するものは除外します）。ただし、先述の通り通信には会員のみなさまからの投稿原稿などもありますし、執筆当時はインターネット上にて公開されることを前提としたわけでもありません。著作権の問題もありますので、会員・非会員にかかわらず執筆者に確認を取る必要がありましょうし、その上で作業を進めることを検討しております。具体的な方法については追って通信上で会員に周知いたしますが、それに先立ちまして通信のバックナンバーの公開について意見がある会員の方がありましたら、事務局に連絡していただきたいと思います。会員のみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

「会員新刊ニュース」情報提供のお願い

本通信では、会員の研究活動の紹介を心がけております。新刊を発行されたご本人、あるいは会員が新刊を発行されたという情報を得られた方は、事務局（代表Ｅメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）もしくは本通信編集担当の井上までご一報いただければ幸いです。

原稿募集

『大学史研究通信』第 58 号は 2009 年 4 月 30 日に発行予定です。会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催行事のお知らせなど、どのようなものでも結構です。皆様からの投稿を心よりお待ちしております。原稿提出・お問い合わせ等は、事務局（代表Ｅメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）、もしくは本通信編集担当の井上までお願いいたします。

住所・所属変更届のお願い

住所や所属（昇任・学位取得も含む）に変更のある会員は事務局までご一報くださるようお願いいたします。また、教授・研究のために海外にご滞在予定の方も、海外でのご連絡先をお教えいただけましたら幸いです。ご連絡は事務局代表Ｅメールアドレス（jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）までお願いいたします。なお、変更届にあたっては、年会費払込票（郵便口座）の「通信欄」を利用することも可能です。

『大学史研究通信』バックナンバー希望者に頒布いたします

『大学史研究通信』第 14 号～現在発行号までを希望者に頒布いたします。事務局代表Ｅメールアドレス（jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）までご連絡ください。折り返し、請求方法をご連絡いたします。

編集後記

みなさまのご協力により、第 31 回研究セミナーも無事、盛況のうちに終えることができました。この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

事務局にあらたに浅沼薫奈会員をお迎えすることとなりました。また、すでにご承知のとおり『大学史研究』は第 24 号より市販化されます。大学史研究会がより充実した会となるよう、精一杯務めて参りたいと思いますので今年もどうぞご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

（井上 美香子　記）

『大学史研究通信』第 57 号の編集は事務局・井上美香子が担当いたしました。
連絡先　〒812-8581　福岡市東区箱崎 6-19-1
九州大学　教育学部 教育社会史研究室（新谷恭明研究室）
TEL＆FAX: 092-642-3113
E-mail: mikako-inoue@luck.ocn.ne.jp

『大学史研究通信』第 58 号は、2009 年 4 月 30 日発行予定です。

大学史研究会事務局

〒635 - 8530　奈良県大和高田市東中 127
奈良文化女子短期大学　吉村日出東研究室内　大学史研究会
TEL: 0745 - 52 - 1279　E-mail: yosimura@narabunka.ac.jp
URL: http://wwwsoc.nii.ac.jp/jshshe/

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表Ｅメールアドレスまでお願いいたします。
E-mail: jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp

大学史研究会事務局員（五十音順）

浅沼　薫奈（大東文化大学）　井上　美香子（九州大学大学院）
岡田　大士　（東京薬科大学）　沖塩　有希子（青山学院大学非常勤）
田中　正弘　（島根大学）　福留　東土　（広島大学）
吉村　日出東（奈良文化女子短期大学）